

センターだよ! 「きずな」
ぎふの
埋蔵文化財

財団法人 岐阜県教育文化財団
文化財保護センター

No.
38
2003.11.1

三田洞事務所 〒502-0003 岐阜県岐阜市三田洞東1-26-1
TEL. 058-237-8550(代) FAX. 058-237-8551
e-mail: gifu@maibun.gifu-net.jp

飛驒出張所 〒509-4122 岐阜県吉城郡国府町名張字峠1425-1
TEL. 0577-72-4784(代) FAX. 0577-72-4690
e-mail: hida@maibun.gifu-net.jp



野内遺跡

ぎふ発 発掘調査最前線

Contents

表紙	巻頭グラビア.....1	センターレポート②	「現地説明会各地で行われる」.....6
センターピックアップ	「木とともに生きた人々(柿田遺跡)...2.3	情報BOX	発掘速報展案内・日誌・あとがき.....7
センターレポート①	ぎふ発 2003 発掘調査最前線 「発掘現場に行こう!!」.....4.5	センターPR	教育普及活動いろいろ.....8

木とともに生きた人々 (柿田遺跡) かきだ

可児市と御嵩町にまたがる柿田遺跡では、約2万点もの木で作られた製品(木製品)が出土しました。木製品は、農具や工具、紡織具、調理具、容器、祭祀具、建築部材など、様々な種類があります。そこで、今回は木製品の特集を組んでみました。

柿田遺跡では、主に弥生時代から室町時代の建物跡や自然流路、水田、堤防や堰などの木組み遺構などが見つかりました。

古墳時代の木組み遺構に伴い、ヒノキの皮を薄く割いて作られた網代を発見しました。長さ3.5m、幅2.6mの範囲に残っており、5枚の網代が重なっていました。

家形埴輪などには、屋根や壁に網代が表現されていることから、今回発見された網代も家の部材として使われていたのでしょうか。



網代出土状況



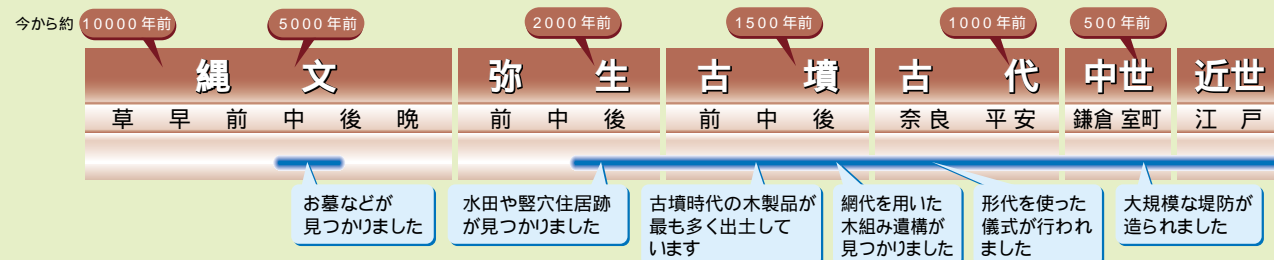
網代が表現されています

家形埴輪【京都府丸塚古墳出土(城陽市教育委員会提供)】



柿田遺跡

柿田遺跡周辺に人々が住んでいた時期



現在と変わらない形の農具

柿田遺跡では約250点の農具が出土しており、下の写真はいずれも古墳時代の農具です。鎌や杵、俵を編む時に使用する木錘などは、近年までこのような形の木製品を使用していた方もいます。つまり、それほど昔の木製品は完成度が高く、それが現在まで受け継がれているといえます。



出土した農具



木を加工する様子

川に流された形代 かたしろ

形代とは、災難などを祓い、清めるための道具です。人、馬、鳥、船、刀などを表現しており、大半が自然流路内の堰付近から発見されました。小規模な祓やまじないの儀式を行っていたと思われる。



水辺の祭祀【参考図: 弥勒寺西遺跡(関市教育委員会提供)】



出土した形代

杭を多く用いた木組み遺構 いこう

弥生時代から室町時代までの自然流路のなかに、堤防や堰などの木組み遺構が見つかりました。水は我々の生活にとって不可欠なものであり、人々は治水・利水のために古来より多大な労働力を費やし、堤防構築などの土木工事を行ってきました。写真は室町時代の堤防であり、主に杭や樹木の枝を芯としてその上に粘土を盛って造られます。



堤防を歩く人



堤防の芯となる杭

特集1 発掘現場に行こう!!

冬の到来まであとわずかです。各発掘現場では、着々と調査が進んでいます。今回、前号で紹介した発掘現場の最新情報をお届けします。美濃地方の5遺跡を紹介します。

Center Report1

変わった形の耳飾りが出土!

檀原村平遺跡の調査は、2年目となります。今年は、縄文時代中期の土器がたくさん出土しています。給食のパンケースくらいの箱で100箱を超えました。なかには、ほとんど元の形のままで見つかった土器もあります。大昔の人が何の目的で埋めたものなのか、好奇心がわいてきます。住居の中につくられた炉(石で囲んだいりりのようなもの)もいくつか見つかりました。そのひとつには、底に土器がびっしりと敷き詰められていました。また、小さな穴の中から、石錘(石のおもり)が7つまとまって出てきてびっくりしたこともありました。さらに、縄文時代前期によく見られる耳飾り(塊状耳飾り)も出土しています。そのひとつは、他で例のない変わった形をしたものです。



変わった形の耳飾り



土器が敷き詰められた炉跡

発掘現場に行こう!!

縄文 中世 近世
A はげ はら たいら
檀原村平遺跡(藤橋村)

Center Report1

縄文時代早期の土器が出土!

この遺跡は、揖斐川右岸の旧徳山村檀原地区にあり、河岸段丘上に位置しています。檀原村平遺跡の対岸にあたります。今回の調査では、縄文時代早期の土器が数点見つかりました。それら土器には、彫刻した丸い棒を土器の面に押し当て、回転してつけた楕円や山形の文様が見られます。また打製石斧や石鏃などの石器も見つかりました。これらの土器や石器は、遺跡のほぼ中央にあった自然流路の近くから出土しており、縄文時代の人々の生活と水との関わりを想像させます。



縄文時代早期の押型文土器

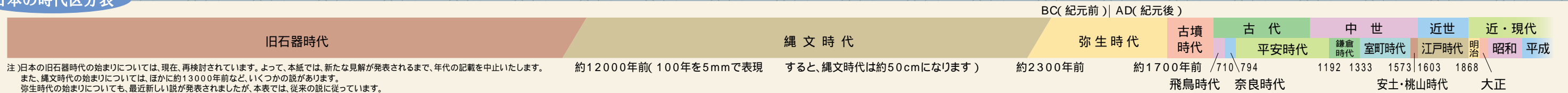


調査区全景

発掘現場に行こう!!

縄文
B はげ はら かみむかい
檀原神向遺跡(藤橋村)

日本の時代区分表



Center Report1

発掘現場に行こう!!

縄文
C いじま遺跡(藤橋村)

狭い段丘上に縄文時代中期の集落跡を発見!



この遺跡は、旧徳山村の檀原集落のすぐ東、扇谷が揖斐川本流に合流する地点より北東へ約1km遡った所にあります。右岸に突き出た狭い河岸段丘上に遺跡が広がります。

今回の調査では、縄文時代中期の土器や石器が多く見つかりました。10

月現在で、4軒の竪穴住居跡、150をこえ

る穴、その他、屋外の炉跡、配石遺構などが見つかりました。また、石鏃、磨石、石皿、打製石斧などの石器も見つかりました。これらのことから、縄文時代中期に、この地が縄文人の生活の場となっていたことがわかります。



縄文時代中期の竪穴住居跡

Center Report1

発掘現場に行こう!!

縄文 古墳 古代 中世
D ひがしの
東野遺跡(坂祝町)

古墳時代前期の集落跡を発見!



古墳時代前期の竪穴住居跡

この遺跡は、木曾川によってつくられた河岸段丘上にあります。9月末現在では、縄文時代中期の竪穴住居跡1軒、古墳時代前期の竪穴住居跡12軒が見つかりました。縄文時代中期の住居跡からは、出入り口に近いところで埋嚢を発見しました。

また、古墳時代前期の大きさのちがう竪穴住居跡がまとまって見つかりました。住居の中には、多くの炭化材が出土したことから焼失したと考えられるものや、この時期のものとしては県内2例目となる鉄鎌(写真)が出土したのもありました。それだけに、この時期の集落の様子を知る上で、貴重な資料となると考えられます。



鉄鎌

その他、掘立柱建物跡や土器棺、中世の集石遺構、多くの土坑が見つかりました。

Center Report1

発掘現場に行こう!!

縄文 弥生 古墳 中世
E おおたらの
大平遺跡(串原村)

弥生時代前期の土器棺が見つかる!



土器棺

この遺跡の一地区は明智川に注ぐ大平川の河岸段丘上に位置し、もう一地区は北からの谷の扇状地上に位置しています。今回の調査では古墳時代前期の竪穴住居跡をはじめ、掘立柱建物

跡や配石遺構などが見つかりました。中でも目を引くのが弥生時代前期のものと思われる土器棺が出土していることです。今回見つかった土器棺3基のうち2

基は横置きに、1基は縦置きに設置されていました。いずれも口の部分を別の土器で蓋のように覆っていることから、墓として埋められたものと考えられます。横置きに設置された2基の土器棺はすぐ近くにあるため、この場所が墓域であった可能性が考えられます。



配石遺構

